

私たちは、NBUS および「ナッシュビル宣言」に反対し、性の多様性を喜びます。

私たちは、「NBUS」(network for biblical understanding of sexuality、性の聖書的理解ネットワーク)の活動、およびその見解の根拠となっているアメリカのキリスト教右派によって作成された「ナッシュビル宣言」が、セクシュアルマイノリティの人権を否定するものであることを強く憂慮します。

NBUS は、2022年7月に日本でキリスト教団体として設立されました。その活動は「LGBTQ で苦しんでおられる方々に寄り添い、聖書の神の愛と救いを伝え、セクシュアルマイノリティの方の変化を助けていくことである」と語られます。一見、愛と寛容をもって寄り添うような姿勢ですが、その根本にはセクシュアルマイノリティへの根深い差別が見られます。

NBUS が見解の根拠とする「ナッシュビル宣言」は、2017年8月に、アメリカのキリスト教右派(南部バプテスト連盟はその主要教派)の指導者たちが発表したもので、同性愛はじめセクシュアルマイノリティへの「新しいアプローチ」を試みています。すなわち、保守的な教会が従来行ってきたように同性愛を断罪し教会から排斥するのではなく、その「罪」を受けとめ、寄り添い、変わっていくことを助けるというアプローチです。しかし、その同性愛についての基本的な理解は、従来と変わりません。

「宣言」第8条には、「私たちは、同性に性的魅力を感じる人々が、(中略)純潔を守って日々歩む中で、イエス・キリストにある信仰によって、神に喜ばれる豊かで実りある人生を送ることができることに同意する」とあり、限定的であれ同性愛を認めるような言葉が見られます。しかし、その内実は、同性愛が個人の内面の事柄である限りは容認しても良いが、行為に及び社会制度に影響を与えることは許さない、ということです。同じ第8条に「私たちは、同性に性的魅力を感じることを神の創造当初からあった自然の一部で良いものであるという考えを(中略)否定する」とあるように、はっきりと同性愛を「罪」とし、セクシュアルマイノリティを否定しています。その姿勢は、「寄り添う」と言いながら、むしろ「上から」狡猾に矯正しようとするものに他なりません。

この「宣言」が出された目的の根底には、「男」と「女」による夫婦のみを認めるという家族制度の維持にあります(第1条「一人の男と一人の女が夫と妻として一つになる」)。背景には、伝統的家族制度が崩壊することへの恐れが見られます。近年、日本国内において、神道政治連盟議員懇談会でLGBTQを否定する冊子が配布されたり、旧・統一協会が保守的政治勢力と結び付きジェンダーフリーや夫婦別姓を否定したりしてきた、反動的右傾化と全く同じ構造です。わたしたちは、こうした活動および宣言を、とうてい看過することはできません。

性の多様性は、神の創造の豊かさを示すものです。神が良しとされる社会は、特定の人の人権を否定し差別し犠牲にしながらかつたものではありません。異なる性のあり方を含めて、一人一人の存在をお互いに尊重し大切にしながら、創っていくものです。神を利用せず、むしろ神の御心に適う社会を共に形成していきたいと願うゆえに、私たちは、NBUSの在り方および「ナッシュビル宣言」に反対します。

2023年3月11日

日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会